

使用頻度から考察する 韓国語の移動動詞の語彙的な意味

李善姫 (イ・ソニ)

動詞はそれぞれ異なる格との結びつきをもち、われわれはその結びつきから動詞の語彙的な意味を探ることができる。例えば、次のような例をみると、

- (1) 공원에 가다.
公園に行く。
- (2) 공원을 걷다.
公園を歩く。

(1) (2) の「公園」という場所名詞はそれだけでは、動詞との関係でどのような意味をもつ場所としてはたらくかよくわからない。しかし、(1) のように「공원에」の形で「가다」と結びつくと、到着する場所をあらわすし、(2) のように「공원을」の形で「걷다」と結びつくと、歩く動作が行われる場所をあらわすことになる。(2) の「걷다」は「공원에」とは結びつくことは難しい。それに対して、(1) の「가다」は「공원을」と結びつくことができるが、「공원을」は到着する場所をあらわし、(2) の「공원을」とは異なる。このような結びつきから、「가다」はある場所に移動する位置変化をあらわす動詞であり、「걷다」はある場所を通っていく動作をあらわす動詞であることがわかる。つまり各々の動詞の結合能力から動詞の語彙的な意味を明らかにすることができるのである。例えば、次の用例をみよう。

- (3) 서울에서 부산으로 갔다.
ソウルからプサンへ行った。
- (4) 서울에서 부산으로 떠났다.
ソウルからプサンへ発った。

「가다」「떠나다」は、(3) (4) のように「서울에서」という出発点をあらわす場所名詞句、「부산으로」という到着点をあらわす場所名詞句と結びつくことができ、「가다」「떠나다」は、出発の位置変化や到着の位置変化をあらわす動詞であることがわかる。

ところが、実際の言語使用においては、それぞれの動詞は出発点や到着点をあらわす名詞句との結合頻度が同じく現れるわけではなく、偏りがみられる。「가다」は到着点をあらわす名詞句との結合頻度が高く、「떠나다」は出発点をあらわす名詞句との結合頻度が高い。

「가다」「떠나다」だけではなく他の移動動詞も、実際の言語資料において出発点、到着点などの場所名詞句との結びつきに偏りがみられるのである。このような結合頻度の偏りは、移動動詞の語彙的な意味と関係があり、場所名詞句との結合頻度の実態から移動動詞の語彙的な意味の側面を探ることができるのではないかと考える。

そこで、李善姫(2021)では、‘移動主体の位置変化をあらわす’という語彙的な意味をもつ移動動詞「가다 (行く)、오다 (来る)、떠나다 (発つ／去る／離れる)、헤매다 (さまよう)、걸다 (歩く)、건너다 (渡る)、모이다 (集まる)、향하다 (向かう)」を対象に実際の言語資料における場所名詞句との結合頻度を調べ、考察を行った。

そして、同じ語彙的な意味をもつ動詞であっても、実際の場所名詞句との結合頻度において違う様子を見せ、それぞれの動詞が異なる語彙的な意味の側面をも合わせもっていることを示した。

従来の研究は、「가다」「오다」のみを研究対象にしているものが多く、実際の使用頻度から移動動詞の考察を行ったものはあまりない。そして、語彙的な意味の側面から移動動詞の体系性を示しているものもあまりない。

現在、李善姫(2021)で考察を行った研究対象以外の移動動詞の調査を行っており、今後語彙的な意味の側面から移動動詞を体系的に位置づけることができるのではないと思われる。

また、実際の言語資料における結合頻度から考察した移動動詞の語彙的な意味がアスペクト、複文、複合動詞の語構成などにどのように現れるのかを考察し、語彙的な意味と文法現象との関係を示すのが今後の研究の目指すところである。

【参考文献】

李善姫「場所名詞句との結合頻度に現れる韓国語の移動動詞の語彙的な意味の特徴」『カルチュラル』
15-1、2021年3月掲載予定